

アーキ・ドキュメント

多彩なロンドンの建築模様

イギリス・ロンドン

連 健夫 文・写真

イギリスも例に漏れず、80年代の建築ブームの後の深い不況に陥り、市内で見かける建築工事もずいぶんと減少した。しかし派手ではないが保存や再生、改修や改築において依然様々な建築活動があり、その中には質が高く注目すべきものがある。また、新築においても都心と郊外両方にわたって興味深い建築が見られる。これらの伝統的建築からハイテクなものまで実に多彩なロンドンの一断面を紹介したい。

保存や再生の意味において興味深いのは、シェークスピア劇場グロブ座の再生とセントパンクラス駅の保存改修工事である。16世紀のシェークスピア劇場を再建しようとして、アメリカ人の俳優、サム・ワナメイカーの長年の再建運動がようやく実を結んだ。円形の劇場部分はオリジナルに忠実に設計され、加えてレストランや演劇のワークショップが設けられた。当時使われていた材料を使い、釘無しの工法で建設され、来春には完成する。19世紀末にジョージ・ギルバート・スコットによって設計されたセントパンクラス駅は、外壁の補修工事がようやく完了し、ネオゴシックの格調高い姿を見せた。昨年未だにチャネルトンネルと直接つながる国際駅になることが決まり、周囲を含めた再開設計画で話題が絶えない。

改修や改築において注目される



のは、ノーマン・フォスター設計による王立芸術院の増改築・サックラーギャラリーであろう。19世紀の建物の中にハイテクな階段とリフトでのアプローチ、そして最上階のギャラリーまで、古きものと新しきものの対比的な調和を感じ取ることができる。また、ロンドン南のクロイドン図書館の増改築も興味深い。ビクトリアンの市民ホール改修も併せて、美術館や旅行案内所、カフェ、会議ホール等を含む地域複合施設としてテボルス・モンローによって設計された。店舗では、ナイジェル・コーツ等によるジグソー各店舗が面白い。彼ら独自の設計理念を具現化した作品で、各店舗それぞれ大変個性的なものとなっている。

新築では、まず第一にニコラス・グリムショー設計のウォーター国際ターミナル駅であろう。ハイテク建築の特徴、すなわち開放性、柔軟性、高技術と工業化の隠喩等を十分に表現した作品として評価が高い。その他、ハイテク建築としてはヒースロー空港近くに位置するイアン・リッチー設計による郊外型事務所ビルや、都心

に位置するリチャード・ロジャースのチャンネル4本部ビルが話題を集めている。小さいものでは、ピアーズ・ガフ (CZWG) 設計のウェストポーン公共トイレはとっってもユーモラスで評価が高い。

大学と建築家との関係

ロンドンにはAAスクールやロンドン大学などユニットシステムを採用している建築学科が多く、これらの学校では各ユニット(研究室、スタジオ)独自の方法で設計教育が行われている。教師の多くは一年契約で雇われた建築家であり、実務を行いながら教育に携わっている。従って、実務家と大学とがかなり近い関係にあり、常に情報交換が行われている。ここにあげた建築家、ナイジェル・コーツはロイヤルアカデミーオブアーツの建築学科長、ニコラス・グリムショーとピアーズ・ガフはAAスクールの評議委員会である。ここで注目すべき点は、これらの建築家が建築教育に深い思慮を持っており、実務を直接的に教える意図ではなく、建築を本質的に学生に考えさせ、各自の興味を広げるよう留意している点である。イギリスの教育は大学に限らず、幼稚園から個性重視の教育が行われている事は周知であるが、この背景があるが故に伝統の中にも創造的建築が生まれ、寛容にも受け入れられているのである。

連 健夫 TAKEO MURAJI

建築家、AAスクール助手。在英日本大使館建築計画編成(1966)年生まれ。多摩美術大学卒業。東京都立大学大学院修了の後、パコ・ポレーション建築設計部、1991年AAスクール(ロンドン)入学。1994年同大学院修了(AA GRADUATE DIPLOMA (HONOURS)) を取得後、東ロンドン大学非常勤講師を経て、現在に至る。専攻分野:教育施設、住宅と都市、建築設計教育



- 16世紀のシェルスピア劇場がロプ座がようやく再建される
- 外壁の補修が完了しネオゴシックの姿を現したセントバンクラス駅
- 王立芸術院に建築されたサッカーギャラリーのハイテクなリフト (1991)
- 手前のビクトリアンの市民ホールに建築されたクロイドン図書館 (1994)
- ナイジェル・コーツ設計の個性的なスローンストリートのジグソー店 (1992)
- エコラス・グリムショウ設計のフォータル—国際ターミナル駅 (1993)
- アイアン・リッチー設計の郊外型事務所ビル (1990) [彼は今年の象ロンドン大学建築学科在学中に立候補したが、AAスクールのピーター・ソルターに軍配した]
- 都心に建つリチャード・ロジャース設計のチャンネル4本部ビル (1994)
- ピアース・ガフ (CZWG) 設計のウェストボーンの公共トイレ (1993) [トイレの地下出入口をイメージさせるユーモラスな外観、花房が入っている。]

